



拡大中学校区 小中リーダー交流会(8月)から ※P11で説明

認め合いを教育活動の中に

指導管理主事 佐藤研一郎

先日、千手中央コミュニティーセンターで、十日町市・中魚沼郡児童生徒発明工夫・模型展が開催されました。今年もたくさんの力作が勢揃いでした。その中で、いくつか目を引いたのが新型コロナウイルスへの対応策を取り入れた発明工夫の作品です。例えば、このような作品がありました。頭に固定するフェースガードでは、食事の時にいちいち頭を上げなければならない不便を感じた作者は、首に固定することを思いつきます。自由な角度で調整できるアームを使って既存のフェースガードに工夫を加え、見事その不便さを解決しました。ほんの少しの工夫で便利なものに変える、これが発明工夫の原点でしょう。

新型コロナウイルスへの感染症対策については、各学校で日々続けており、教職員の皆様のご苦勞には本当に頭が下がる思いです。ベストな対策は存在しないのかもしれませんが、みんなで知恵を出し合いながら「新しい生活様式」を進めていく必要があります。その中で、子ども自らが、自分でできる感染症対策を考え、実行することはまさに予測不可能な未来を生きる子どもたちにとって、とても大切な経験であり、大きな力になるのではないのでしょうか。そして、小中一貫教育の中で目指す「自己有用感」を引き出すチャンスでもあります。

自己有用感とは「自分は人の役に立った」「人から感謝された」「人から認められた」など、自分と他者との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる自己に対する肯定的な評価です。上記の発明工夫・模型展だけではなく、様々な学校の活動の中で、子ども同士でも認め合える場面は多数あると思います。「認め合う」場面を意図的・計画的に教育活動の中に位置付け、振り返る視点を大切にしながら、子どもたちの自己有用感を高めていただきたいと思います。

小中一貫教育より

■ 小中一貫教育 中学校区教職員研修会 各中学校区の実態に応じ、工夫した内容で開催

今年度から夏季休業中の標記研修会は、全教職員が参加して行う研修を2年に一度とし、今年度は各中学校区による独自の研修としました。内容には、共通取組事項「自己有用感」を取り入れて3年目となることを踏まえ、児童生徒の「自己有用感」を高めるための手立てを考える内容を加えて開催しました。



具体的な計画は、1学期に2回小中一貫教育コーディネーター研修を行い、中学校区毎に検討を加え立案しました。研修の概要は下記のとおりです。

中学校区	日 時	会 場	「自己有用感」に関わる研修の概要
拡大中	8月6日(木) 13:00~15:00	中条中学校	○東小学校、十日町中学校の実践発表。 生徒指導リーフ配布。 ○『絆づくり』『居場所づくり』に関して、2学期以降の授業でどのような取組ができるか。また、これまでにどのような取組を行ってきたかについて、KJ法を活用しグループ協議・発表
南中	8月21日(金) 14:00~16:30	南中学校	○プレゼン資料と生徒指導リーフ等に基づき「自己有用感」に関する説明 ○各班での自己有用感を高める活動の振り返り、「居場所づくり」「絆づくり」を視点に2学期に取り組む内容の検討
吉田中	8月5日(水) 13:30~15:00	千手中央コミュニティセンター	○「キャリア教育/15の春 現状と取組」についての説明 ○各部会に分かれて、KJ法を活用しながら「15の春を迎える戦略マップ」について協議・発表
下条中	7月22日(水) 14:00~15:30	下条中学校	○プレゼン資料、「子どもの社会性が育つ『異年齢の交流活動』」等に基づき自己有用感の研修と「下条地区の目指す姿(目標)」の確認 ○「今後の小中交流活動(異学年交流)を行うためにはどうしたらよいか」をテーマに学年部ごとに協議・発表
水沢中	7月29日(水) 14:00~16:30	水沢中学校	○独立行政法人教職員支援機構 校内研修シリーズNo.13「生徒指導」(講師:関西外国語大学 教授 新井 肇)の動画視聴 ○体育祭・運動会及び普段の授業場面での自己有用感を高める工夫、手立てについてグループ協議・発表
川西中	8月5日(水) 10:00~11:30	川西中学校	○川西中学校の実践発表及び自己有用感の説明 ○Web-Q-Uの各校の実態紹介後、ワールドカフェで「自己有用感を高める取組」について意見交換・発表
中里中	8月3日(月) 14:00~16:00	田沢小学校	○「自己有用感を高める取組」について、生徒指導リーフ等を基に説明 ○特別支援教育に関わる講演会 講師:川西特別支援高等学校 教諭 木嶋智子 様
松代中	8月6日(木) 13:30~15:30	松代小学校	○Q-U研修会 講師:林るみ子 様 Q-Uの見方を学び、小中学校のQ-Uの実態発表、2学期の手立て・自己有用感の向上~絆づくり、居場所づくり~について協議・発表
まつのやま学園	8月3日(月) 9:00~10:20	まつのやま学園	○プレゼン資料、生徒指導リーフ等に基づき、自己有用感の取組(絆づくり、居場所づくり)等の確認 ○2学期の教育活動の中に自己有用感を高める具体的な支援や手立て・評価方法について、学校行事のチームごとに協議・発表

■ 拡大中学校区研修会 実践発表内容

拡大中学校区の実践発表について、概要を紹介します。

① 東小学校 「自治的集団育成と自己有用感向上に向けて」 ～学級活動「クラス会議」

東小学校では、令和元年度から全校体制で取り組んできた「クラス会議」の取組について発表がありました。取り入れた意図として、「児童の学級への所属感や自己有用感を高めるための取組」があり、職員研修で「学級経営」「クラス会議」「クラス会議の授業公開」を行ってきました。また、「クラス会議を行う意義」として、右のように学校体制で取り組むことを明確にしました。

そうした中で、**自治的集団育成を支える考え方としての哲学「自分たちのことは自分たちでやらせる」**を踏まえることで、教師の指導行動も変えることを大切に取り組みました。そして、令和元年度の成果として、Q-Uテスト結果で、「学級生活に満足している児童の割合」の増加、「学級生活に不満足な児童の割合」が減少したことが報告されました。

そして、令和元年度の成果として、Q-Uテスト結果で、「学級生活に満足している児童の割合」の増加、「学級生活に不満足な児童の割合」が減少したことが報告されました。



クラス会議を行う意義？

学級担任制

学級担任が替わるたびに、行うこと、大切にしたい価値がコロコロ変わる。

担任によって、良くなったり悪くなったり
適応できたりできなかったり

6年間を見通した一貫した教育をめざす

担任が替わっても、子どもたちはできる
学級改善ではなく、学校改善

クラス会議を行う意義？

やるからには、例外なく全学級がやる。

最低6年間はやるつもりで。

(1年生が卒業するまで)

クラス会議をしなくても、同じように学級を高めることはできる。しかし、それは、優秀な教師が担任をするその一年だけ。継続するためには、確立された方法論が必要。

同じ実践をみんなですること
職員室の協働力向上をめざす

② 十日町中学校 自己有用感を高める取組 2018 2019 2020

十日町中学校は、現3年生の実態を数値で示しながら、自己肯定感と自己有用感が低い課題を解決するために、学校経営方針にある「学ぶ十中」「さわやか十中」「燃える十中」の柱の基、「貢献」と「認め合い」をキーワードに自己有用感を高めることを学校として生徒会、保護者・地域にアピールし取り組みました。具体的には、「自己有用感を高める学び合いのある授業、学級活動」「生徒会、生徒の自治活動」などの取組の様子が報告されました。

そうした中で、現3年生が1年生の時の数値と現在の比較により、生徒アンケートの「自分にはよいところがある」の肯定的評価が年々向上したこと、Q-U学級生活満足度が年々向上したこと、NRT結果が向上傾向にあることが成果として報告されました。

両校の実践報告は、児童生徒の実態から課題をとらえ、学校体制で取組を具体化し、実践していくことで児童生徒の力を高め、成果を上げている内容でした。



■ 川西中学校区研修会 事例発表とワールドカフェ

初めに、川西中学校から「生徒会 実践発表～『居場所づくり』『絆づくり』を意識した活動を通して、自己有用感を高める工夫」と題して実践報告がありました。

川西中学校『当たり前』の規程	
あ	A ctivities 明るいあいさつ 校歌を声高らかに
た	T hanks 物を大切に 人を大切に
り	R ules 時間を守る きまりを守る
ま	M anners 身なり正しく 礼儀正しく
え	E tiquette 清潔に きれいに

今年度の生徒

会活動ではP D C Aサイクルを回し、「あたりまえ」という年間を通してのテーマを掲げ、行事をつなげて考え取り組みました。そう

した中で、取組や振り返りを見える化し、CheckとActionに繋がっていました。

また、後半は各校のQ-U結果報告を基に、2学期以降の課題の解決方法や「自己有用感」を高める取組をワールドカフェ形式で話し合いました。最後の学校毎の解決策の発表では、各校の一体感を感じました。また、今年度初めての全教職員の話し合いでしたが活発に意見交換が行われ、中学校区のまとまりも感じられました。

Check 成果と課題

【結果】

- 1年生：どの項目でも否定的な回答から肯定的な回答の増加がみられた。
- 2年生：事前アンケートの段階から全体的に肯定的な回答が多かったが、事後では、肯定的な回答の中でも、より強い肯定的な回答が多くなった。
- 3年生：事前事後ともに肯定的な回答が多かったが、事後アンケートにおいて、数名「できていない」と回答した生徒がいた。

【成果】

- ・「あたりまえ」の意識が高まり、ねらいにある「居場所づくり」「絆づくり」につなげることができた。
- ・生徒が「あたりまえ」を高めるためにどうしたらいいか考え、活動を展開したことで自治的な活動となった。

Action

【課題】

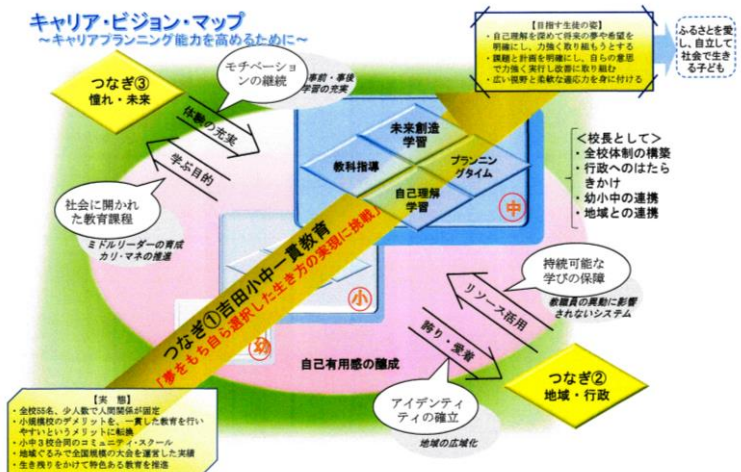
- ・「あたりまえ」の5つの項目すべて取り入れたため、生徒の意識が分散してしまい、アンケートの数値は上昇したが、生徒個々で見るとまだ改善の余地がある。今後の行事では、「あたりまえ」の中から重点項目を設けて、意識が分散しない工夫が必要だと感じた。



■ 吉田中学校区研修会 キャリア教育/15の春・戦略マップ作り

吉田中学校区では、小中一貫教育の部会の中に「キャリア教育部(特設)」を設け、グランドデザインの基礎となる考え方として、キャリア教育の視点から「かかわる力、みつめる力、やり抜く力、未来を切り拓く力、郷土愛」を重視し、9年間を見通し、「15の春」の姿をめざし取り組んでいます。

それを受け、「キャリア教育/15の春 現状と課題」について、吉田中学校佐藤校長から説明があり、その後部会に分かれて「15の春を迎える戦略マップ」についてK J法を用いて話し合い、最後に各部の発表が行われました。話し合いでは、学区の児童生徒には失敗経験や成功体験、挑戦の大切さが話題になったり、自己理解や自己決定、自己有用感を高めるためにはどうしたらよいかなどを話し合ったりする中で、中学校区としての方策や取組を真剣に検討する姿が見られました。発表では、「将来について考える、選択する機会」「夢、未来について語る場」の必要性などが出されました。



教育相談班より

令和元年(2019)度 十日町市立学校 不登校・いじめ等の状況について

「十日町市の学校教育」における小中共通課題の一つ「不登校・いじめの減少」について、ここ5年間の実態や取組状況について紹介します。

1 不登校児童生徒(年度に30日以上不登校による欠席児童生徒)の状況 (※H27～R1)

(1) 学年別の推移 (人数)

年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	中計	合計
H27		1	1	1	3	5	12	11	26	21	58	70
前年度から継続		(2)	(1)		(1)	(2)	(6)	(3)	(19)	(17)	(39)	(45)
H28			1		2	3	6	21	19	23	63	69
前年度から継続					(1)		(1)	(6)	(10)	(17)	(33)	(34)
H29	1	1	3	3	2	3	15	8	23	20	51	66
前年度から継続				(1)			(1)	(3)	(13)	(10)	(26)	(27)
H30		4	2	3	5	4	18	8	8	20	36	54
前年度から継続		(2)		(2)	(3)	(1)	(8)	(3)	(7)	(11)	(21)	(29)
H31 (R1)	1	1	3	3	4	8	20	7	16	8	31	51
前年度から継続			(2)	(1)	(3)	(3)	(9)	(5)	(8)	(4)	(17)	(26)

(2) 県や国との比較(人数、%：割合)

	小学校			中学校			合計		
	十日町市	県	国	十日町市	県	国	十日町市	県	国
H27	12人(0.46%)↑	0.40	0.42	58人(4.33%)↑	2.67	2.83	70人(1.91%)↑	1.19	1.26
H28	6人(0.23%)↓	0.43	0.47	63人(4.86%)↑	2.88	3.01	69人(1.79%)↑	1.27	1.35
H29	15人(0.60%)↑	0.50	0.54	51人(4.09%)↑	3.00	3.25	66人(1.75%)↑	1.37	1.47
H30	18人(0.74%)↑	0.64	0.70	36人(2.89%)↓	3.38	3.65	54人(1.47%)↓	1.58	1.69
H31 (R1)	20人(0.85%)	—	—	31人(2.51%)	—	—	51人(1.42%)	—	—

(県は公立小・中学校、国は国公私立を対象：新潟県教委、文部科学省の資料による)

※↑…県、国より不登校出現割合が高い ↓…県、国より不登校出現割合が低い

- 不登校児童生徒数は、小学校で増加、中学校では減少しました。この3年間で小学校は年々増加傾向、中学校は年々減少傾向にあります。「不登校対応マニュアル(市教委作成)」の配布や指導主事による学校訪問を受け、不登校に対する学校の取組に改善を加えて着実に行った成果が出ています。
- 市教育相談センターとの併設で市適応指導教室(にこやかルーム)における相談支援機能が充実し、学校復帰につながった生徒が増えたのも大きな成果につながっています。今後も各学校で一人一人の状況(不登校リスク等)を丁寧に分析し、組織対応を進めていくことや市関係機関との連携による適応指導の充実を図っていく必要があります。
- 児童生徒の存在感や自己肯定感、社会的スキルを高める社会性の育成とともに、不登校の兆候が見られた初期段階での適切な対応による未然防止を図ることが大切です。

- 各校において、不登校にかかわる取組の成果と課題を分析し、入学や進級時における円滑な接続や社会性の育成、個別支援の充実のための個別の指導計画や校内体制の整備、小中学校間や家庭・関係機関との連携について、常に見直しと改善を図ることが大切です。
- 保護者や専門機関、医療と連携の強化を図っていくことが必要です。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための臨時休業（令和2年3月2日～学年末休業の開始日まで）により、「中学校の不登校数、不登校割合」「全体の不登校数、不登校割合」が減った可能性は否定できません。令和2年度に入り、『新規不登校者の出現』『完全不登校者の増加』が見られ、心配な状況にあります。

(3) 不登校の要因

<小学校>

(分類は複数回答)

主たる要因	学 校							家 庭			本 人					不明			
	いじめ	友人関係	教職員との関係	学業不振	進路不安	クラブ部活不適応	学校のきまり	入進学進級不安	家庭環境の変化	親子関係	家庭内不和	病欠欠席	あそび・非行	無気力	不安等情緒的混乱		意図的な拒否	発達障がい	その他
	2	13	1	13	0	0	2	0	6	6	4	232	0	18	39	11	1	36	4

<中学校>

(分類は複数回答)

主たる要因	学 校							家 庭			本 人					不明			
	いじめ	友人関係	教職員との関係	学業不振	進路不安	クラブ部活不適応	学校のきまり	入進学進級不安	家庭環境の変化	親子関係	家庭内不和	病欠欠席	あそび・非行	無気力	不安等情緒的混乱		意図的な拒否	発達障がい	その他
	1	23	3	17	4	13	2	1	7	7	8	85	3	14	37	10	9	20	2

- 小学校では、友人関係、学業不振や学校における環境変化などによる不安等の情緒的混乱が不登校の大きな要因となっています。中学校では、学業不振や友人関係・部活動内の人間関係への悩み、家庭内における不和等が、不登校の大きな要因になっていて、次に進路の順に割合が高いのが実情です。いじめが主たる要因とするものは昨年と比べると減少しました。

(4) 30日以上欠席不登校児童生徒の登校・通室等状況

(人数)

	小 学 校				中 学 校			
	H28	H29	H30	H31	H28	H29	H30	H31
① 主に全欠状態	2			1	5	9	3	1
② 主に教室登校	2	8	5	6	11	15	11	9
③ 主に保健室や相談室に登校	2	4	6	8	26	8	3	7
④ 主に校内適応指導学級に登校		2	4	3	19	11	13	9
⑤ 主に市適応指導教室に通室		1	3	2	2	8	5	5
⑥ 主に民間施設に通っている								
合 計	6	15	18	20	63	51	36	31

- 小中学校とも、残念ながら全欠状態の児童生徒がいましたが、中学校では3年間で大きく減ってきています。また、保健室や相談室を主な登校場所としている児童生徒が増えました。

市適応指導教室の利用状況については、利用児童生徒が増加しています。市教育相談センターとの併設で適応指導支援が充実し、結果、不登校に至らないで教室復帰につながっている(前項に数字で表れない)児童生徒が増加してきました。



2 いじめの状況

(1) いじめの認知件数

< H27年度 >

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計	合計
男子	2	0	6	3	8	5	24	15	3	1	19	43
女子	2	0	0	4	2	2	9	10	2	0	12	21
計	3	0	6	7	10	7	33	25	5	1	31	64

< H28年度 >

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計	合計
男子	2	3	0	6	5	7	23	12	8	2	22	45
女子	0	1	0	1	1	0	3	5	6	2	13	16
計	2	4	6	7	6	7	26	17	14	4	35	62

< H29年度 >

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計	合計
男子	2	1	4	4	12	4	27	19	9	7	35	62
女子	0	2	0	0	4	1	7	4	4	12	20	27
計	2	3	4	4	16	5	34	23	13	19	55	89

< H30年度 >

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計	合計
男子	1	9	4	2	4	10	30	16	13	10	39	69
女子	2	5	3	4	5	3	22	7	5	3	15	37
計	3	14	7	6	9	13	52	23	18	13	54	106

< H31年度 (R1年度) >

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計	合計
男子	6	6	6	8	9	6	41	17	13	5	35	76
女子	1	3	4	14	9	7	38	16	7	5	28	66
計	7	9	10	22	18	13	79	33	20	10	63	142

- 文科省の指導でいじめの認知に関する基準が示されたことにより、いじめの認知件数は小学校、中学校とも年々増えてきています。積極的に早期に認知し、対応した結果であると言えます。今後とも、積極的な認知とスピード感をもって組織的な対応をしていく必要があります。

(2) いじめの発見のきっかけ

(件数) (複数選択)

区 分	小学校	中学校
学級担任が発見	10	10
学級担任以外の教職員が発見 (養護教諭、SC等相談員除く)	4	5
養護教諭が発見	1	0
スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0	1
アンケート調査など学校の取組により発見	7	9
本人からの訴え	13	23
当該児童生徒 (本人) の保護者、家族からの訴え	28	19
児童生徒 (本人を除く) からの情報	12	2
保護者 (本人の保護者を除く) からの情報	4	1
地域の住民からの情報	0	0
学校以外の関係機関 (相談機関を含む) からの情報	0	0
その他 (匿名による投書など)	0	1
計	79	71



- いじめ発見のきっかけは、小学校では保護者からの訴えが多く、次いで本人からの訴え、他の児童生徒からの訴えが続いています。中学校では、本人からの訴えが多く、次いで保護者からの訴え、教育相談等による学級担任の発見が続きます。昨年と比べ、教職員の発見や

アンケート等による発見が多くなっており学校の努力がうかがえます。いじめは大人が見ていない時間、場所で発生していることが多いことから、学校体制で多くの目で見守り、早期発見・即時対応していくことが今後も必要です。また、児童生徒の少しの変化を常に気に掛ける、情報を共有することも大切です。

(3) いじめの態様

(複数選択)

区 分	小学校	中学校
冷やかしからい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	35	37
仲間はずれ、集団による無視をされる。	13	10
軽くぶつかられる、遊ぶふりをして叩かれる、蹴られる。	2	3
ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	14	4
金品をたかられる。	0	0
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられる。	12	2
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされる。	33	20
パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。	0	8
その他	0	0
計	109	104

- 小中学校とも言葉による冷やかしからい、悪口が一番多く、ついで嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされる等の嫌がらせが多いです。また、小学校では叩く、蹴る等の暴力事案が増えてきています。
- ズボンおろし（小学校1件、中学校8件・女子に発生2件）があり、命の危険につながる重大な事故の恐れがあることを繰り返し指導していく必要があります。
- 中学校では、携帯電話やネット関係によるものが昨年度より増えています。中学校はもとより、小学校時点からの情報モラル教育を一層充実させる必要があります。

(4) いじめ解決の状況 ※報告時の数値

(件数)

	解消している	一定の解消が図られたが、経過観察中	解消に向けて取り組み中	他校への転学・退学等	計
小学校	3	57	19	0	79
中学校	3	43	17	0	63
計	6	100	36	0	142

国は平成29年に「いじめ防止等のための基本的な方針」を3年ぶりに見直し、新潟県・新潟県教育委員会も、それを受ける形で、平成30年2月、「いじめ防止基本方針」の改定を行いました。その中で、「いじめが解消している」状態について、以下の二つの要件が示されました。

①いじめに係る行為が止んでいること

いじめを受けた児童生徒に対する心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものも含む)が止んでいる状態が相当の期間継続していること。相当の期間とは、少なくとも3か月以上を目安とする。学校いじめ対策組織において、さらに長期の期間が必要であると判断した場合は、より長期の期間を設定するものとする。

②いじめを受けた児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと

いじめを受けた児童生徒がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないことを本人及び保護者に面談等で確認し、認められること

これらの要件が満たされている場合であっても、必要に応じ、他の事情も勘案して判断するものとする。いじめが「解消している」状態とは、あくまで、ひとつの段階に過ぎず、「解消している」状態に至った場合でも、いじめが再発する可能性が十分にあり得ることを踏まえ、各教職員は、当該いじめのいじめを受けた児童生徒及びいじめを行った児童生徒については、日常的に注意深く観察しなければならない。

以上のことを踏まえ、各学校は、いじめが解決に至ったと認められても、その後も注意深く関係する児童生徒に対する観察や面談等を継続していく必要があります。

<附追> 新潟県教育委員会では、県内で度重なり起こる「いじめの重大事態」やいじめ対応の見直しを図るべく、平成31年3月『新潟県いじめ等防止のための資料集 ～いじめ防止学習プログラム vol. 2～ ～生徒指導研修資料 vol. 2～』を、令和2年3月『新潟県いじめ対応総合マニュアル 小・中学校編』を作成、各校に配布し、実効性のあるいじめ対応の実践を求めているところです。

学習指導班より

Tokamachi English Camp(TEC)を開催(8/19(水))

今年度のTokamachi English Camp(TEC)は小学生のみ、8月19日(水)に千手中央コミュニティーセンター(千手コミセン)で開催しました。新型コロナウイルスの影響を考慮し、午前だけのプログラムで実施としたところ、33名の申し込みがあり、当日は32名が参加しました。

半日のプログラムということで、アクティビティは2つとしました。1つ目のアクティビティ「English Trivia」では、ALTがいろいろなジャンルからクイズを出し、グループで相談して回答しました。初めて顔を合わせた仲間同士で、はじめは緊張している様子も見られましたが徐々に打ち解け、協力して取り組むことができました。

2つ目のアクティビティ「SCAVENGER HUNT」は、千手コミセンの館内オリエンテーリングです。25のCheck Pointをグループで探し、「月曜日を英語で? → □onday」のように、□に当てはまるアルファベットをつないでいきます。ALTのいるCheck Pointでは、「What sports do you like?」のような問いかけにしっかりと答えられたらアルファベットを教えてもらえます。多くの子が「Baseball」のような単語の回答ではなく、「I like Baseball.」と答えていたことに感心しました。

今回は、「アフター・コロナ」を見据え、どのようなプログラムが実現できるかという挑戦でもありました。ぜひ、参加した児童に感想などを聞いてみてください。

今年度のプログラムでの成果と課題を踏まえ、来年度はさらにバージョンアップしたEnglish Campができるよう、工夫と改善を進めていきます。

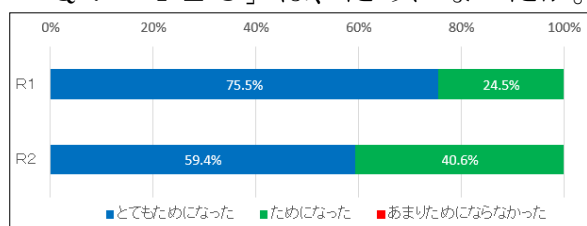


【参加者のアンケートから】

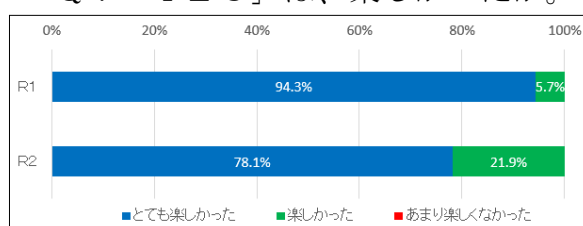
1 参加回数 初参加=22名、2回目=10名

2 感想

Q: 「TEC」は、ためになったか。



Q: 「TEC」は、楽しかったか。



【参加児童の感想（一部）】

- ・国の名前などを当てて謎を解いたりして、もっと英語が得意に、楽しくなった。
- ・英語を通じてグループの人と話し合ったり、いろいろな先生と英語で話したりできてとても楽しかったし、ためになった。
- ・「SCAVENGER HUNT」でいろいろな問題が出た。分からない問題もあったけど、分かるようになった。（8月（オーガスト）の頭文字はOだと思ったけど、正解はAだった。単語の覚え間違いを直せた。）

■ 今年度1回目のエキスパート教員研修 開催

今年度最初のエキスパート教員研修が、9月14日（月）に中条小学校で行われました。吉田真也教諭による、情報モラルの授業です。（3年生25名。）



ネットでのトラブルが増えていることの話を受け、それを自分たちの生活に照らしたとき、どのようなことが必要かを考えさせる授業でした。児童は一人一人、タブレット端末をすいすいと操り、

「ロイロノート」というソフトで自分の意見を送信していきます。吉田教諭の端末には提出された児童の意見がどんどん集約され、一覧となってスクリーンに表示されます。児童は、「ネットでのトラブルを防ぐには、相手のことを大切に考えて行動することが大事」など、真剣な表情でまとめていました。

授業後の講義では、「**情報モラルの指導では、そのみで考えるのではなく、日常のモラル指導と併せて指導することが重要。**」という話がありました。例えば、ネット利用ができない状況にすれば児童生徒のトラブルがなくなるかという点、そうではなく形を変えて、いじめなどが起こる可能性があります。つまり、**普段の生活から、人を傷付けない言動を心掛けること、お互いに気持ちのよい関係・環境で生活できるようにすることが大切**だということです。

最近では、ネットトラブルは、どんどん低年齢化する傾向にあり、学校生活にも影響が出ている事例が見られます。吉田教諭からは、情報モラル指導に活用できる資料の情報提供もありましたので、興味のある方は吉田教諭や教育センターにお問い合わせください。

吉田教諭による2回目のエキスパート教員研修は、今回3年生がタブレットで操作した授業支援・思考ツール「ロイロノート」を活用した授業提案で、10月20日（火）を予定しています。 G I G Aスクール構想により、児童生徒一人に1台タブレット端末が配備されることにより、すべての教員にICT活用能力が求められます。ぜひ、ご参加ください。

また、もう一人のエキスパート教員である、下条中学校の池田繁人教諭による数学の公開授業・講義は、11月4日（水）に予定されています。 こちらにも、積極的なご参加をお願いいたします。

学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～10・11月～

日 程	内 容【会場】	備 考
10月7日(水) 14:30～16:30	不登校対策研修会 【千手コミセン】	講師：中越教育事務所 指導主事 佐藤 典人 様 対象：市立学校管理職（各校1名悉皆）
10月14日(水) 14:00～16:30	～プロに学ぶ～授業力向上研修 Part 1（小学校社会科） 【下条小学校】	講師：筑波大学附属小学校 教諭 由井 蘭 健 様 対象：市立学校教職員、サポート訪問研修受講者
10月15日(木) 14:30～16:30	第4回特別支援教育研修講座 【千手コミセン】	講師：特別支援教育学識経験者
10月22日(木) 15:00～16:30	学級経営研修会（講演会） 【千手コミセン】	講師：魚沼市政策監 伊佐 貢一 様 対象：市立学校教職員（各校1名以上、上限3名まで）
11月4日(水) 14:00～16:40	エキスパート教員研修 【下条中学校】	講師：下条中学校 教諭 池田 繁人 様 対象：市立学校教職員、サポート訪問研修受講者
11月19日(木) 15:00～16:40	経験3年未満事務職員研修Ⅱ 【川西庁舎】	講師：十日町市博物館職員 対象：採用3年目までの郡市内事務職員
11月20日(金) 15:00～16:30	人権教育・同和教育教職員研修 【千手コミセン】	講師：県人権同和センター派遣講師 対象：市立学校教職員（各校1名以上）、市教委職員、市市民生活課職員
11月26日(木) 14:30～16:30	第2回いじめ防止対策研修会 【千手コミセン】	講師：中越教育事務所 指導主事 田邊 輝明 様 対象：市立学校生徒指導・生活指導担当者（各校1名）
11月26日(木) 15:20～16:45	図書館担当者研修会 【十日町情報館】	対象：市立学校図書館担当職員
10・11月	キッズ英語遊び塾 橘 小：10/2(金)、11/27(金) 鏡島小：11/6(金) 馬場小：10/9(金)、11/26(木) 吉田小：10/16(金)、11/20(金)	15:10～16:00 14:50～15:40 14:50～15:40 15:10～16:00
10・11月	外国語活動サポート訪問 十日町小：10/7(水) 松之山小：11/16(月) 千手小：11/18(水)	

【表紙写真の説明】

夏季休業中を利用し、拡大中学校区では例年行っていた小中リーダー交流会の内容や時間を工夫し、新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら実施しました。

中条中学校生徒会役員を中心に十日町中学校生徒会役員が協力し、小グループでの交流活動と小学生からの質問タイムがありました。交流活動では、中学生が小学生の緊張をうまくほぐし和やかな雰囲気を作り出していました。質問タイムでは、小学生の中学校生活への純粋な質問に中学生が分かりやすく答えていました。小学生にとって中学生への憧れを感じる交流会であり、質問の答えは多くの小学生に伝えたい内容であったと感じました。